

野菜の需給・価格動向レポート(平成22年11月1日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格動向		10月の価格動向			生育及び価格の11月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		
				下旬	中旬	
キャベツ	74.19	93	74.19	108	88	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、夏の高湿少雨の影響等で一週間程度の生育の遅れと品質低下がみられることから、前年より少なめの出荷量で推移しているが、中旬から本格的な出荷が開始し、下旬より漸増傾向の見込み。 千葉産、茨城産の遅れなどから、価格は上旬は高めであるが、中下旬は落ち着いてくる見込み。
	93.59	95	93.59	108	92	
ねぎ (関東：白ねぎ、 関西：青ねぎ)	273.33	479	218.22	417	282	<ul style="list-style-type: none"> 青森産の出荷は順調だが、前年の出荷量には届かない見込み。埼玉産は高温の影響で生育が遅れ、中旬から本格的な出荷が開始される見込み。 埼玉産の遅れなどから、価格は上旬までは高めで推移する見込み。
	512.77	578	444.77	538	343	
はくさい	82.17	96	54.1	110	67	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、夏の高湿・少雨の影響から生育が遅れ上旬までは安定した出荷量とならず、中下旬より本格的な出荷となる見込み。 茨城産の遅れから、価格は上旬までやや高めで推移する見込み。
	98.58	96	73.09	104	65	
ほうれんそう	583.95	737	333.43	745	490	<ul style="list-style-type: none"> 群馬産・茨城産ともに、9月以降の天候の回復により、遅れていた生育が順調となり、出荷量が回復している。 天候の回復とともに順調な入荷量の増加が見込まれるが、10/27からの寒さの影響により、若干入荷量の減少が見込まれ、価格はやや高めに推移する見込み。
	670.86	791	399.77	803	580	
レタス	166.6	190	144	347	178	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、順調な生育となり、出荷も順調となっている。兵庫産は生育が遅れていたが、上旬より本格的な出荷の開始の見込み。香川産は中旬から本格的に出荷が開始される見込み。 価格は、主産県の順調な出荷により、平年並みに推移する見込み。
	160.6	194	147.25	389	207	
たまねぎ	76.15	117	76.15	131	133	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、小玉傾向かつ成品率が悪いことから、出荷量は平年を下回る見込み。 価格は、北海道産が不作であることから、平年より高めに推移する見込み。
	76.15	118	76.15	135	138	
きゅうり	210.69	286	262.75	324	232	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉産は、猛暑や最近の曇天の影響でやや出荷量が減少傾向だが、今後天候が回復すれば順調な出荷が見込まれる。群馬産は、夏の高湿の影響による成り疲れで出荷量が安定せず、前年の出荷量には届かない見込み。 価格は、埼玉産、群馬産が安定しないことから、やや高めで推移する見込み。
	221.71	288	271.16	327	246	
トマト	218.58	619	315.83	648	488	<ul style="list-style-type: none"> 熊本産は、遅れていた生育は回復してきており、順調な出荷で前年並みの出荷量が見込まれる。千葉産は、順調な出荷が見込まれるが猛暑の影響等で着果不良が一部にみられ、前年の出荷量を下回る見込み。 夏秋もの、抑制ものの早めの切り上がりにより入荷量は少ないと見込まれることから、価格は、平年より高めで推移する見込み。
	271.33	560	337.88	663	548	
なす	209.55	330	316.84	287	205	<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、天候の回復により順調な出荷となっている。福岡産は草勢が回復し出荷量が回復傾向にあり、今後は順調な出荷が見込まれる。栃木産はピークを過ぎ出荷量は減少傾向。 価格は、高知産の順調な入荷量が見込まれることから、平年並みかやや低めに推移する見込み。
	221.72	289	277.06	249	195	
ピーマン	263.58	411	263.58	484	391	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、9月の気温低下の影響で着果不良等があり、出荷量が減少傾向だったが、上旬には回復し、中旬から平年並みの出荷となる見込み。宮崎産は生育は順調だが、作付面積の減少もあり、前年の出荷量を下回る見込み。 価格は、入荷量が少なめと見込まれることから、上旬までは平年より高めで推移する見込み。
	282.16	451	282.16	493	418	
だいこん	99.58	107	64.33	120	79	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は少雨の影響で生育が一週間程度遅れており、本格的な出荷は11月10日前後からであるが、出荷量は前年を下回る見込み。神奈川産は高温の影響で播種は遅れたが、天候の回復により生育が回復し、前年並みの出荷の見込み。 価格は、入荷量が伸びないことから、平年より高めで推移する見込み。
	111.54	105	76.48	123	83	
にんじん	129.56	163	129.56	152	146	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は高温・乾燥の影響で5~10日程度生育が遅れている。出荷量は前年を下回る見込み。北海道産は、高温の影響で播種や生育不良がみられ、前年より少なめの出荷量の見込み。 価格は、千葉産が少なめと見込まれることから、平年より高めで推移する見込み。
	129.59	161	129.59	154	158	

種類	9月の価格動向		10月の価格動向		生育及び価格の11月の見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格				
い	さといも	242.66	282	200.88	284	262	・入荷見込量: 1,232t (92) ・主産地: 埼玉 (58)、千葉 (15)、栃木 (8)、輸入 (4)	・埼玉産は、夏の高湿、少雨の影響で出荷開始が遅れ、前年の出荷量よりは減少傾向。千葉産は少雨の影響で、平年に比べてやや小玉傾向で、前年の出荷量を下回る見込み。 ・価格は、平年並みかやや高めで推移する見込み。
		220.11	214	207.2	240	233	・入荷見込量: 270t (100) ・主産地: 愛媛 (40)、宮崎 (37)、福井 (6)、熊本 (6)	
も	ばれいしょ	96.77	147	88.17	153	159	・入荷見込量: 6,773t (93) ・主産地: 北海道 (99)	・北海道産の収穫作業は終盤。夏の高湿の影響で小玉傾向、空洞果多く、玉つきも悪く、出荷量は少なかつた前年を下回る見込み。 ・入荷量は前年を下回る見込みで、価格は引き続き平年より高めで推移する見込み。
		96.77	138	88.17	145	148	・入荷見込量: 4,000t (96) ・主産地: 北海道 (92)	

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
2) 旬別平均販売価格の背景なしは保証基準額を上回るもの。背景ありは下回るもの(消費税は除く)。
3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、9月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4.605gで対前年比90%、購入金額は、1,818円で対前年比99%となり、購入量が対前年を下回っている。
また、小売価格統計によると、10月のキャベツの小売価格は209円で過去5年平均比143%、レタスは688円で同164%となっており、10月は価格が平年を大きく上回っている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

年	過去5年平均		平成21年		平成22年	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,130	1,521	4,277	1,548	4,240	1,551
2月	4,325	1,548	4,536	1,529	4,461	1,574
3月	4,675	1,690	4,799	1,685	4,970	1,768
4月	4,758	1,783	4,783	1,805	4,518	1,804
5月	5,127	1,884	5,216	1,918	4,925	1,965
6月	5,042	1,856	5,180	1,888	5,026	1,907
7月	4,471	1,668	4,645	1,648	4,264	1,697
8月	4,330	1,703	4,321	1,752	4,241	1,733
9月	4,913	1,783	5,141	1,828	4,605	1,818
10月	5,382	1,807	5,691	1,767		
11月	5,024	1,569	5,307	1,560		
12月	5,185	1,797	5,213	1,751		

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農産物消費を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

月	キャベツ			レタス		
	過去5年平均	平成22年	5カ年比(%)	過去5年平均	平成22年	5カ年比(%)
1月	201	173	86	613	639	104
2月	188	199	106	500	530	106
3月	190	201	106	464	479	103
4月	231	343	148	435	596	137
5月	188	182	97	376	468	124
6月	151	168	112	339	377	111
7月	149	164	110	315	317	101
8月	159	169	106	449	536	119
9月	153	155	101	472	515	109
10月	146	209	143	419	688	164
11月	129		0	339		0
12月	146		0	456		0

注1:過去5カ年は平成17~21年
注2:10月の値は、10月中旬の速報値

資料:総務省統計局「小売価格統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

平成22年9月までの輸入動向を貿易統計でみると、生鮮野菜が対前年比123%の57万トン、輸入野菜全体では、同111%の182万トン、うち中国産は同114%の91万トンとなり、引き続き前年を上回って推移している。

野菜等の輸入数量の推移について

区分	平成20年		平成21年		平成22年1月~9月		平成22年9月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	
生鮮野菜	602,733	84	615,271	102	571,110	123	121	
加工野菜	1,660,663	93	1,569,627	95	1,248,954	107	104	
野菜輸入量合計	2,263,395	90	2,184,898	97	1,820,064	111	109	
うち中国産野菜合計	1,150,352	81	1,098,415	95	913,417	114	113	
中国産シェア	51		50		50			

資料:ページ探(原資料)財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	(A)2009.10(B)2010.10		(B)/(A)
		(A)	(B)	
たまねぎ	合計	19,538	15,333	78
	中国	14,922	11,971	80
	米国	4,581	3,361	73
にんじん	合計	3,327	3,955	119
	中国	3,050	3,750	123
	オーストラリア	249	187	75
ねぎ	合計	2,870	2,547	89
	中国	2,867	2,537	88

資料:農林水産省「植物防疫統計」(2010.10)は、10月第3週までの速報値である。

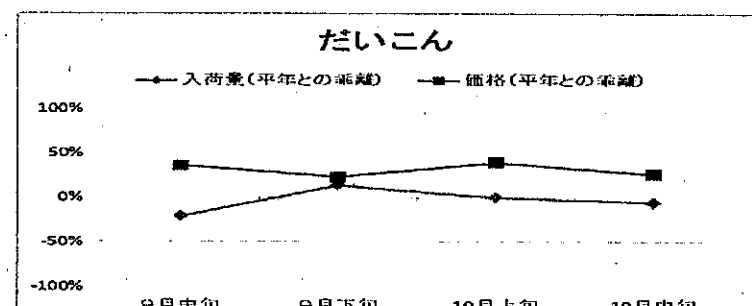
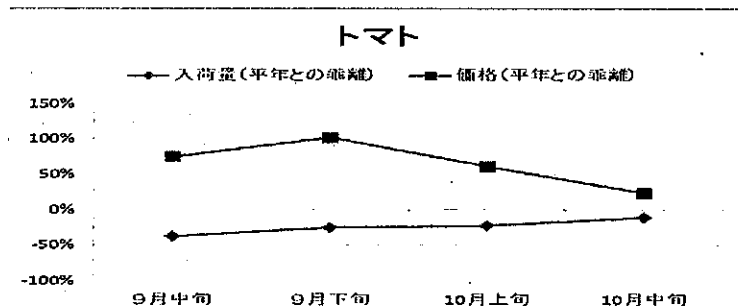
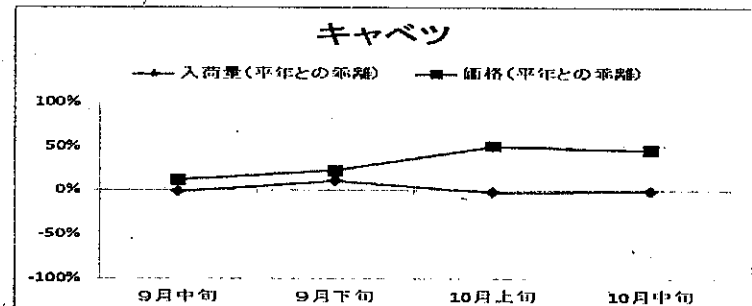
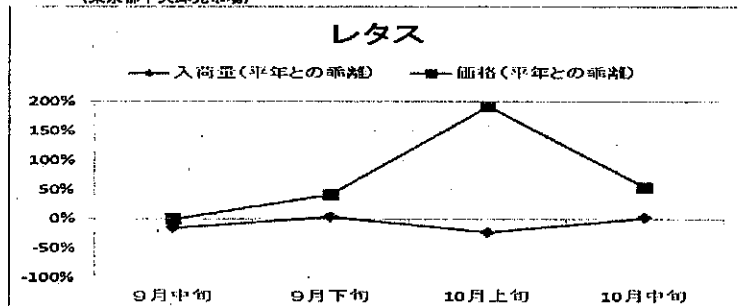
4 トピック

9月中旬から10月中旬にかけての主要野菜の価格動向について

9月~10月からの価格動向をみると、10月上旬をピークにいずれも価格は沈静化してきている。
レタスの10月上旬の価格高騰が目立つが、これは、①品目特性として、保存性がなく、みずみずしい食感が求められることから、輸入にも限界があること、②サラダや付け合わせに欠かせないことから、業務用には必需品であること、③産地が集中していることから、端境期が発生しやすいこと、などが要因としてあげられる。こうしたことから、業務用の納入業者は価格のいかにかわらず数量確保を行い、価格が高騰したものと推測される。

主要野菜の入荷量と価格の推移(9月中旬~10月中旬)

(東京都中央卸売市場)



資料:青果物情報センター

《大規模生産者・法人の皆様への窓口を開設しました! (直接契約課)》

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、太田、三部 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484